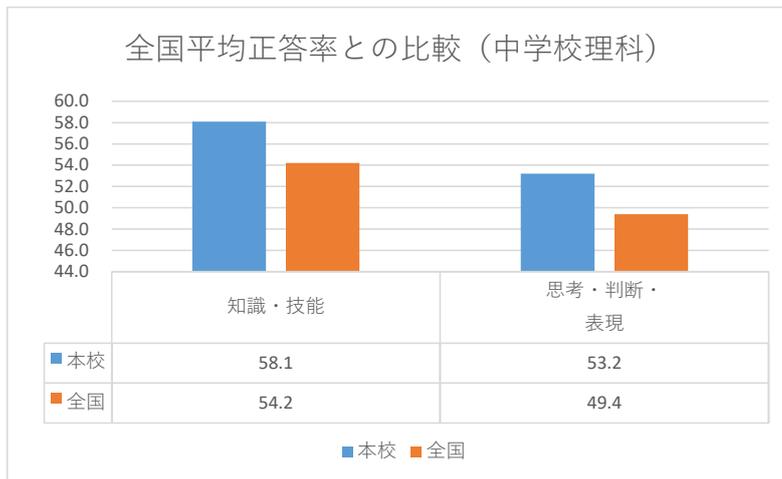


4 理科



(1) 結果

全体での全国平均正答率は 51.8% であり、全国より 3.9 ポイント上回っていることから、日々の学習の成果が表れた結果となったと考えられる。

(2) 成果と課題

本校の生徒は「粒子」の領域において、全国 11.1 ポイント上回っており、「粒子」の領域を得意としていることが分かる。日々の授業で、小テストを繰り返し行ったことで化学式や科学的用語などの知識が定着してきていると考えられる。一方で、「エネルギー」と「生命」の領域では、全国を下回る結果となった。電気抵抗を求める公式を覚えていないことや基本的な計算に苦手意識があることなどが要因と考えられる。また、生物についての知識の定着が浅かったと考えられる。

観点別に見ると、「知識・技能」、「思考・判断・表現」ともに全国を上回っていることが分かる。基礎的な知識と実験などの基本的な技能が定着してきており、その知識や技能を用いて思考や判断、表現することができていることが分かる。授業で、キーワードの意味をワークシートやノートに記入したり、重要語句を強調したりする工夫を行うことで知識が定着していると考えられる。

さらに学習状況調査の結果より、本校の生徒は「理科」の学習が好きであり、授業の内容もよく分かるとの回答が全国に比べて多いことが分かった。また、理科の学習が、将来、社会に出たときに役に立つと思っており、普段の生活の中でも活用している生徒も多い。また、将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいという生徒も多い。このことより、本校の生徒は「理科」に対して非常に好意的、かつ、積極的に学習できている生徒が多いことが分かる。一方で、「理科の勉強は得意ですか」という質問にのみ、肯定的な意見が少なく、全国を下回る結果となった。これは、本校の生徒が高い志をもって日々の学習に取り組んでいることが要因であると考えられる。生徒一人ひとりが自信をもって理科の学習に取り組むことができるように本調査の結果を承認していきたい。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- さらなる科学的用語の定着を図るために、小テストや単元末テストなどを行う。
- 複数の領域をまたいで出題されるような活用問題にも対応できるように、多くの科学的事象に触れさせる。

【家庭では】

- テスト前や長期休暇の際の提出課題に粘り強く丁寧に取り組み、学習内容の定着を図る必要がある。また、テスト後に間違った問題を確認し、同じ問題や類似問題を解き直す必要がある。